

MESSA DI GLORIA (MESSA A QUATTRO VOCI)

「グローリア・ミサ (4声のミサ曲)」

ジャコモ・プッチーニ

「グローリア・ミサ (4声のミサ曲)」は、プッチーニが21歳の時に音楽院の卒業制作として作曲した作品で、5曲から成るミサ曲です。初演時には盛んな喝采を受けましたが、その後70年以上静かに眠っていました。1951年になってようやく楽譜が出版され、その翌年に再演されました。それ以降「グローリア・ミサ」と呼ばれています。全5曲の演奏には約50分を要します。

ミサとはカトリック教会の典礼(儀式)のことで、イエスが十字架にかけられる前日に12人の使徒たちととった「最後の晩餐」に由来します。ミサでは年間を通じて常に同じ式文(通常文)と、季節などによっていろいろ変化する式文(固有文)が用いられます。ミサ曲はミサの式文に曲をつけたもので、グローリア・ミサは通常文の式文に曲をつけたミサ曲です。

1. KYRIE (憐れみの讃歌)

♪ *Essence* 主よ、憐れみたまえ。キリストよ、憐れみたまえ。

美しいメロディに Kyrie eleison (訳: 主よ 憐れみたまえ) という歌詞を乗せて静かに始まります。その後、曲調は一転して緊張感のある響きとなり、Christe eleison (訳: キリストよ 憐れみたまえ) の言葉を4パートが重ね、最後にもう一度最初のメロディに戻って曲が結ばれます。

2. GLORIA (栄光の讃歌)

♪ *Essence* 天のいと高きところでは神に栄光が、そして地上では善意の人に平和がありますように。私たちはあなたを拝し、あなたに感謝を捧げます。

「グローリア」は「栄光の讃歌」のことで、演奏に約20分かかる大曲です。曲は8つの部分に分かれ、目まぐるしく曲調が変わります。女声の明るく弾むようなメロディで始まり、次にテノールとベースの男声2パートが同じメロディを繰り返し、やがて全パートでテーマを高らかに提示します。その後、曲調を様々に変化させながら、後半では4パートがフーガ(同じ旋律が複数の声部に順に現れる形式)となって絡み合い、冒頭のテーマを再提示しながら圧倒的な迫力のフィナーレに向かっていきます。

1. KYRIE



Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

合唱

主よ、憐れみたまえ。
キリストよ、憐れみたまえ。
主よ、憐れみたまえ。

2. GLORIA



Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.

合唱

天のいと高きところには神に栄光がありますように。
そして、地上では善意の人に平和がありますように。

Laudamus te. Benedicimus te.
Adoramus te. Glorificamus te.

私たちは主をほめ、主をたたえ、
主を拝み、主を讃美いたします。



Gratias agimus tibi
propter magnam gloriam tuam.

テノール独唱

主の大いなる栄光ゆえに、私たちは主に感謝いたします。



Domine Deus, Rex caelestis,
Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.

合唱

神なる主、天の王、
全能の父なる神よ。
主なる御ひとり子、イエス・キリストよ。
神なる主、神の子羊、父の御子よ。

Qui tollis peccata mundi,
miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.

世の罪を取り除かれる主よ、
私たちを憐れんで下さい。
世の罪を取り除かれる主よ、
われらの願いをお聞き入れください。

Quoniam tu solus sanctus
tu solus Dominus.
Tu solus altissimus, Jesu Christe.

あなたのみが聖なる方です。
あなたのみが主です。
あなたのみが、いと高き方です。イエス・キリストよ。

Cum Sancto Spiritu, in gloria Dei Patris.
Amen.

聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。
アーメン。